

島根県立大学出雲キャンパス  
紀要 第7巻, 91-99, 2012

## “笑顔の花！咲かせカルタ” の作成と地域づくり

足立 直美\*<sup>1</sup>・門脇 博子\*<sup>1</sup>・板垣和佳奈\*<sup>2</sup>  
藍原 未央\*<sup>3</sup>・大月 絢加\*<sup>4</sup>・小倉 芳\*<sup>5</sup>  
明石 彩奈\*<sup>6</sup>・大槻 祐子\*<sup>7</sup>・川岡 直子\*<sup>8</sup>  
黒田 早紀\*<sup>9</sup>・坂本 君代\*<sup>10</sup>・鐘築 伸正\*<sup>10</sup>  
吾郷美奈恵

### 概 要

地区住民と共に地域づくりを推進する“カルタ”を作成し、その活用の可能性検討した。作成した“カルタ”の“読み札”は『どんな地区であればよいのか』地区住民から情報を求め、その情報を基に44枚作成した。“取り札”は、地区の事業と歴史文化や自然などの資源を基に94枚作成した。なお、“読み札”と“取り札”はコミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて内容のバランスを調整した。

完成した“カルタ”を、地区の児童クラブに通う小学校1年生から3年生の48名で実施し、対象に合わせてルールを工夫することで小学校低学年でも活用できた。その結果、“カルタ”の活用により、地区におけるヘルスプロモーションが促進できると推察された。

キーワード：地域づくり，エンパワメント，住民参加，カルタ

### I . 緒 言

近年では、都市化の進展や生活様式、価値観の多様化などにより、地域住民の交流が少なくなっている。それに伴い、地域住民の連帯感や地域に対する親近感も薄くなり、地域が本来もっている相互扶助の機能が低下していると報告されている（内閣府,2007）。また、平成23

年3月11日に発生した東日本大震災においては、日常的に地域のつながりが強く、隣近所の交流があった地域は、津波が来る前に住民同士で助け合い、避難することができたというニュースもあった。震災の教訓からも、改めて地域づくりの重要性を検討する時期にあると考えられている（田上,2011）（尾見,2011）。

我々は1年間の保健師養成課程で学ぶ学生として4月から地区を担当し、“縁・川跡に夢あふれる笑顔の花を咲かせよう”というテーマで活動してきた。このテーマは、人との出会いを大切にして、夢あふれる地区で、さらに笑顔を広げていく活動をしたいと思い考えたものである。地域看護基礎実習等でさまざまな事業に参加し、地区の役員や民生児童委員、主任児童委員などが活躍し、各種ボランティアなど地域住民の協力も得て行われている様子を学ぶことができた。事業の運営は、地区にあるコミュニティ

\*<sup>1</sup> 松江生協病院

\*<sup>2</sup> 松江赤十字病院

\*<sup>3</sup> 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院

\*<sup>4</sup> 岡山大学病院

\*<sup>5</sup> 兵庫県尼崎市

\*<sup>6</sup> 山梨勤労者医療協会石和共立病院

\*<sup>7</sup> 滋賀県米原市

\*<sup>8</sup> 松江記念病院

\*<sup>9</sup> 島根県隠岐郡西ノ島町

\*<sup>10</sup> 川跡コミュニティセンター

センター（以下、センターとする）が中心となっているが、地域住民が主体的に実施していた。

このような住民の主体的な活動を促進していくことは、コミュニティ・エンパワメントにおいて重要な要素である（中山・岡本・塩見,2005）。コミュニティ・エンパワメントとは、地域の人々が関係する人々と協働する中で、地域に共通した課題解決やよりよい生活達成を人々とともにできる、やってみようと思えるようになり、またそれを可能にするしくみをもつことができるようになるプロセスと定義されている（星・麻原,2008）。コミュニティ・エンパワメントを推進する利点は、住民の豊富なアイデアが得られること、住民の目線で必要なニーズを見いだせることである（まちづくりステーション,2011）。また、住民に主体者としての自覚が生まれるため、課題を認識して主体的に課題解決をする行動を促すきっかけとなり、さらには自分の住んでいる地域に愛着をもつことにつながると報告されている（市民参画の推進の手引き,2011）。

そこで、我々は地域づくりへの住民参加の手法として、カルタに着目した。カルタは元々、人々と交流しながら学べ、年齢、性別に関係なく世代を超えて誰でも楽しむことが出来る教材として利用されてきたものである（宮本・木村,2006）。住民が望む地区を“読み札”，地区で行われている事業と歴史文化や自然などの資源を“取り札”とし，“カルタ”を作成した。名称は“笑顔の花！咲かせカルタ”（以下，“カルタ”とする）とした。

今回は、地区住民と共に地域づくりを推進する“カルタ”を作成し、その活用の可能性を検討することを目的とした。

## Ⅱ．カルタの作成

### 1. 方法

“カルタ”の“読み札”を作成するにあたり、『どんな地区であればいいのか』を、図1に示した情報収集用紙を用いて地区住民に情報を求めた。情報収集用紙は平成23年10月初旬に自治会に加入している1,920世帯にセンターを通じて配布し、11月初旬までに提出を依頼した。

**情報収集用紙**

(例)

ぬ 抜かりなく 子どもたちを 見守ろう

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

○ \_\_\_\_\_

お忙しい中、ご協力いただき  
ありがとうございました。




図1 情報収集用紙

また、センターとJAの2か所に情報収集用紙と提出箱を置き、自治会に加入していない住民にも情報を求めた。なお、センターではFAXでの提出も受け付けた。

情報収集用紙に書かれた内容と我々が考えたものを合わせて、“あ”から“わ”までの44音別にすべて列挙した。次に、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて分類した。コミュニティ・アズ・パートナーモデルとは、保健師がコミュニティを1つのパートナーとして捉え、住民と一緒に問題を解決していこうとする地域保健活動の考え方である。このモデルでは、住民に与える影響として、コアと8つの領域があり、それぞれをアセスメントすることで地域の持つ健康問題や課題、ニーズなどが把握できるものである（荒賀・後閑,2011）（金川,2008）。このモデルを用いて、地域全体を把握することができるように“読み札”を領域別に偏りが無いように調整した。また、“読み札”は、良いところを見つけてそれを伸ばしていくような表現にした。

“取り札”は、地区で行われている事業と歴史文化や自然などを資源とした。地区の現状が

“取り札”であることから枚数を制限せず、地区の役員やセンター職員の協力を得て網羅した。また、写真をできるだけ多く用い、写真のないものや写真ではわかりにくいものはイラストで表現した。“取り札”には、事業と資源の名称と簡単な説明文を加えた。“読み札”と“取り札”には、“カルタ”のロゴマークを入れ、A4サイズでラミネート加工した。

## 2. 結果

情報収集用紙は、センターを通じて18名から91の“読み札”，JAを通じて5名から6の“読み札”が集まった。住民から得られた97の“読み札”と、学生が考えた369の“読み札”を、

表1 “読み札”の一覧

	読み札
あ	明るい未来のためにルールを守る
い	生きがいがたくさんあふれてる
う	うっとり芸術にふれ癒される
え	笑顔ありみんな放課後集まれる
お	教えてね先生たちは身近な住民
か	買い物行ったら川跡(かわと)へGO!
き	今日も事故0(ゼロ)目指して交通安全
く	クリーンな環境のためにみんなで活動
け	健康づくりみんなで守って維持できる
こ	コミセンで出合いの輪をひろげよう
さ	さあ発信！私たちの手で地区活動
し	自治会加入し川跡(かわと)の一員
す	すいすいと水路は身近な水族館
せ	世代越えつながり続く川跡(かわと)地区
そ	爽快な風をうけて走り抜けていく
た	大丈夫？その一言で助かる命
ち	地産地消の安全・安心川跡(かわと)から
つ	伝えよう伝統文化子孫まで
て	手と手をつないで国際交流
と	登下校挨拶交わして広がる輪
な	懐かしの味知って作るうつつまでも
に	にっこりとみんなが笑顔でふれあえる
ぬ	抜かりなく子どもたちを見守っている
ね	ネットワークつながる情報コミセンで
の	陰手刈り(のうてごり)朝日に映(は)ゆる築地松(つじまつ)
は	花や木をたくさん植えて豊かな緑
ひ	斐伊川(ひいかわ)の豊かな水が田を潤す
ふ	福祉充実安心生活
へ	勉強し川跡(かわと)をもっと好きになる
ほ	防犯しよう地域のかで犯罪防止
ま	ママ友いっぱい安心子育て
み	未来にも繋げていこうエコライフ
む	無理をせず毎日続けて運動を
め	目指すのはずっと健康ずっと長生き
も	もったいない気持ち高めるリサイクル
や	野菜にお米皆で支える農産業
ゆ	豊かな自然に囲まれてのびのび生活
よ	より多く政治への関心増えるといいな
ら	ランドセル背中になじんだ小学生
り	臨機応変に災害に対応できる
る	るんるんとみんなが沢山お出かけできる
れ	歴史や文化が根付いている
ろ	労働の体験通して喜び学び
わ	若狭土手(わかさどて)川跡(かわと)の郷を守ってる

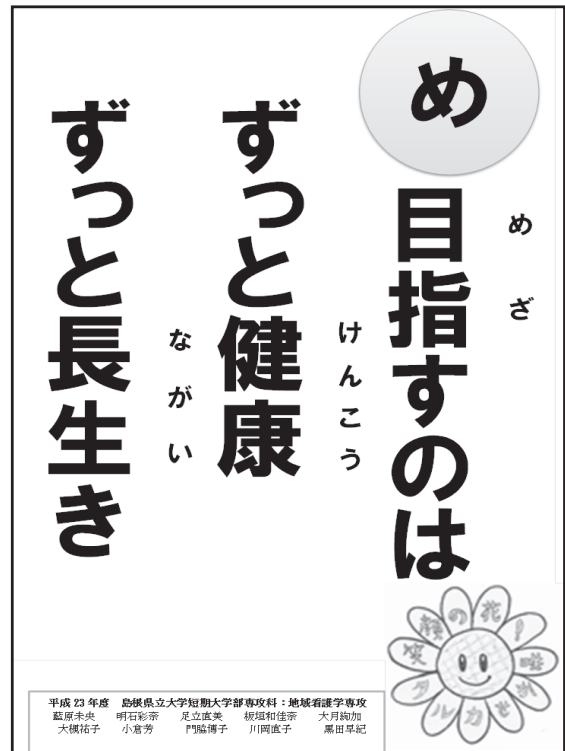


図2 “読み札”の例

表2 コミュニティ・アズ・パートナーモデルの領域別“読み札”と“取り札”の枚数

領域	単位:枚	
	読み札	取り札
コア	5	4
物理的環境	5	9
経済	4	2
政治と行政	2	2
教育	6	23
安全と交通	5	7
コミュニケーション・情報	5	3
レクリエーション	6	25
保健医療と社会福祉	6	19
計	44	94

コミュニティ・アズ・パートナーモデルのコアと8つの領域に分類した。その際、領域ごとの枚数に偏りがあったため、少ないものに対しては優先して採用した。多いものは他の領域と均等になるように調整した。そして、表1に示した“あ”から“わ”の44枚ができた。事業や資源を表す“取り札”は全部で94枚であった。そのうち、写真は79枚、イラストは15枚であった。

完成したコミュニティ・アズ・パートナーモデルの領域別“読み札”と“取り札”の枚数を表2に示した。“読み札”は各領域がほぼ均等な枚数になるように調整を試みたが、政治と行

政の領域は2枚であった。“取り札”は多いものから順に、レクリエーション25枚、教育23枚、保健医療と社会福祉19枚であった。

“読み札”の例として、図2に[目指すのはずっと健康ずっと長生き]を示した。子どもでも読みやすいように、漢字にはふりがなをふった。“取り札”の例として、図3に[いきいき交流会]の様子を示した。また、写真だけで表現できないことは簡単な説明を加えた。



図3 “取り札”の例

### Ⅲ．カルタの活用

#### 1. 方 法

地区にある児童クラブの多目的ホール（約70㎡）を会場として、平成23年12月中旬にカルタ会を計画した。開催に際し、児童クラブ指導員の協力を得て、児童クラブに通う児童の保護者に、カルタ会の趣旨や方法、参加の有無により利益・不利益はなく、プライバシーに配慮し公表時に個人が特定されることはない、などを文書に記載し、保護者の了解と児童の自由意思による参加を求めた。

対象は児童クラブに通う小学校1年生から3年生までの53名である。

“カルタ”のルールを表3に示した。ルールの特徴は、個人戦でも団体戦でも可能で、参加者の年齢や会の目的に応じて時間を設定し、“読み札”の内容や枚数を決めるなど、ルールを工夫することができる。このカルタは、普通のカルタと異なり、1枚の“読み札”に対し、それに関連する複数枚の“取り札”を取ることができる。例えば、[伝えよう伝統文化子孫まで]

表3 “カルタ”のルール

<b>～笑顔の花！咲かせカルタ～</b>	
“笑顔の花！咲かせカルタ”は、個人戦でも、団体戦でも可能なゲームです。また、参加者の年齢や会の目的に応じて、制限時間を設けたり、内容や枚数を決めるなど、工夫することで、楽しくゲームすることができます。	
1. 事前に準備すること。	①ゲームを団体戦か、個人戦か決めます。 ②制限時間を設けるか、「読み札」を選んで枚数を決めておきます。 ③参加者の中心に「取り札」を並べます。
2. 「読み札」を読み、「取り札」を取る。	④「読み札」を1枚読みます。理解できない場合は、繰り返し読みます。 ⑤「読み札」を読み終えて、合図があったら「取り札」を取ります。 ⑥「読み札」1枚に対し、一人1枚の「取り札」です。 ⑦同時に同じ札を取った場合、じゃんけんで勝った人のものです。 ⑧団体戦の場合は、できるだけ多く取れるよう、チームで相談します。
3. 「取り札」の判定をする。	⑨「取り札」を取った理由を一人ずつ発表します。 ⑩その理由を聞いて、納得できる(○)か否か(×)を参加者が判断します。 ⑪団体戦の場合は、チームで相談して判断します。 ⑫判定は、多数決で納得できる(○)か否か(×)を決めます。
4. 得点を記入する。	⑬認められた枚数を点数表に記入します。 ⑭団体戦の場合は、記録係(読み札を読む人)が記入すると良いです。 ⑮「読み札」が1枚終わるごとに、「取り札」を中央に戻します。
5. ゲームの終了。	⑯最初に決めた、時間や「読み札」を全て読み終えた時が終了です。 ⑰得点を合計し、枚数の一番多い人(チーム)の勝ちとなります。

という“読み札”に対し、[築地松]、[神社]、[とんどさん]などが取れると考えられる。[とんどさん]であれば「鎌倉時代から無病息災を願い行われているからです。」などの理由を発表し、参加者が納得できると判断した場合は得点となる。しかし仮に[医療機関]という“取り札”を取ったとすると、これは“読み札”に関連していないと考えられるため、得点にはならない。

今回は児童にも理解できるものとするため、対象に関係のあるものや知って欲しい内容の“読み札”を5枚選んだ。“取り札”は、全く関係のないもの15枚を除き、79枚とした。ルールは最初に実演を交えて説明し、1チーム6名から7名編成で8チームの団体戦とした。各チームに学生が1名ずつ入り支援した。また、“取り札”を並べるカルタゾーンとチームごとの陣地を設けた。ゲーム開始前にカルタゾーンに“取り札”を置き、自由に閲覧できるようにした。“取り札”を取る際に音楽を用いて、カルタゾーンに入ってよい時間と陣地に戻る時間を明確にした。最後にカルタ会を行った記念として各チーム一人ひとりに賞状を手渡した。

評価として、カルタ会終了時に①“カルタ”をやってみて楽しかった、②“カルタ”のやり方は分かった、③“取り札”に挙げられている活動に参加してみたいと思った、④“カルタ”をして地区のことがよく分かった、⑤地区が好きになった、の5項目を質問した。

## 2. 結 果

カルタ会の実施には、児童クラブの児童48名と指導員4名、主任児童委員1名の参加があった。カルタゾーンに並べてある“取り札”を見て「これ参加したことあるよ。」「これ知ってる。」という発言があった。

“読み札”の1枚目は[笑顔ありみんな放課後集まれる]、2枚目は[目指すのはずっと健康ずっと長生き]を読んだ。対象が“読み札”に対して選んだ“取り札”を表4に示した。[笑顔ありみんな放課後集まれる]では、18枚の“取り札”を取った。また、[目指すのはずっと健康ずっと長生き]では38枚の“取り札”を取った。1枚目と2枚目で同じ“取り札”が10枚あっ

た。

1枚目の“読み札”で[児童クラブ]を取り、「放課後に集まるところだからです。」という理由や[各方面通学路見守り]を取り、「見守り隊さんがいてくれるから、安全に帰れるし、ずっと笑顔で過ごせると思ったからです。」という理由を述べた。2枚目の“読み札”で[医療機関]を取り、「病院で健康を守っていると思います。」という理由や[神社]を取り、「神様が見守ってくれているから、健康で過ごせると思います。」という理由が聞かれた。また、[交通安全教室]を取り、「交通安全教室をすると安全になると思う。」という理由に対し、「安全と健康は関係ない。」「安全になると犯罪がなくなったり、死ぬ人もなくなるため健康につながる。」という意見があった。

また、[いきいき交流会]の“取り札”は高齢者が座って運動している場面の写真であるため、「座っていると運動にならない。」という理由があった。これに対し、司会者が「子どもにとっての運動とお年寄りにとっての運動は違い、座っていても手などの運動はできる。」ということを伝え、対象の賛同を得た。

ルールを説明した際に、「難しい。」という反応があり、1枚目では笑顔という単語をもとに、笑顔の写真の“取り札”を取ったり、近くにある“取り札”を考えずに取っている状況もあった。しかし、2枚目では“読み札”に関連する“取り札”が多く取れた。その後、“カルタ”を行った記念として賞状を渡したところ、嬉しそうな笑顔がみられ「家でお母さんに見せよう。」と話していた。

保護者の迎えの関係で最後まで残っていた15名に、5つの質問を行ったところ次のような回答を得た。①“カルタ”をやってみて楽しかった12名(80.0%)、②“カルタ”のやり方は分かった13名(86.7%)、③“取り札”に挙げられている活動に参加してみたいと思った7名(46.7%)、④“カルタ”をして地区のことがよく分かった5名(33.3%)、⑤地区が好きになった5名(33.3%)、であった。

表4 “読み札” に対し対象が選んだ“取り札”

読み札	笑顔ありみんな 放課後集まれる	目指すのは ずっと健康ずっと長生き
収穫祭(もちつき)	○	○
救急処置法の学習	○	○
区民体育大会	○	○
スポーツレクリエーション祭り	○	○
川跡(かわと)ふるさと祭り	○	○
歩け歩け運動	○	○
いきいき交流会	○	○
高齢者料理教室	○	○
各方面通学路見守り	○	○
医療機関	○	○
かわとチャレンジ広場	○	
子どもエコ工作	○	
北陽(ほくよう)わんぱくクラブ	○	
北陽(ほくよう)こどもクラブ	○	
川跡(かわと)コミュニティセンター	○	
おはようサイクリング	○	
環境フェスティバルinかわと	○	
保育園	○	
神社		○
一斉クリーン運動(春・秋)		○
田んぼ、畑		○
だんだん市場		○
料理教室		○
通学合宿		○
スポーツ講演会とトレーニング教室		○
子どもたちのエコ活動～エコキャップ回収運動～		○
かわとようちえん		○
春、秋全国交通安全運動		○
交通安全教室		○
自転車教室		○
安全パトロール		○
あいさつ運動		○
川跡(かわと)交番		○
サークル活動		○
チアダンス「ドリームエンジェルズ」		○
各種スポーツ大会		○
しめ縄づくり		○
ミニ運動会		○
ちまき作り		○
北陽(ほくよう)マラソン大会		○
ノルディックウォーキングで健康づくり		○
地域ミニ交流会		○
介護者家族の会等		○
各大字サロン事業(茶のん話会)		○
子育てボランティア		○
健康ボランティア		○
<b>その他、準備していた取り札</b>		
西山砂保(にしますなほ)	若狭土手(わかさどて)	築地松(ついじまつ)
地域環境保全活動(ビオトープ)	水路	茶道教室
川跡(かわと)をもっと知りたい川跡まち歩き	斐伊川(ひいかわ)	一泊スキー研修
斐伊川(ひいかわ)一斉清掃	EMほかしづくり	サンレイク研修
米のとぎ汁の有効利用	子どもおやつクッキング	親子フリーマーケット
郷土史の勉強会～夏の夜の語りペ～	和太鼓(響)	北陽(ほくよう)小学校
産業文化祭	銭太鼓(凜)	エコまつり
迎春門松づくり	とんどさん	斐伊川(ひいかわ)河川敷公園
食事ボランティア		

## IV. 考 察

“カルタ”作成において、住民から『どのような地区であればよいか』の情報を収集した。このことにより、[若狭土手]や[陰手刈り]など、我々には気がつかなかった地区の特徴的な要素も多く取り入れることができた。住民参加は、地域づくりの主体者としての住民自身の自覚や地域への愛着を生み、課題解決をしていく行動を促すきっかけになり、住みよい地域に発展させることができる(市民参画の推進の手引き,2011)。また、ヘルスプロモーションを促進するにあっても、個人あるいは集団による、効果的かつ、具体的な住民参画を求めることが大切である(イローナキックブッシュ(島内憲夫訳),1995)(中谷・久保田・奥野他,2011)。つまり、この“カルタ”の作成と活用の過程を通して、ヘルスプロモーションが促進され、住民が地区について思い描ききっかけになったと考える。

“カルタ”は、地域の全体像を捉えるために、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた。“読み札”と“取り札”を領域に分けたことで、様々な視点から地域の持つ健康問題や課題、ニーズなどを把握することができた。“読み札”において政治と行政の領域が2枚であったことは、市内の地区の単位で政治と行政を考えることには限界があるためだと考える。主に地区の事業を基にした“取り札”は、教育、レクリエーション、保健医療と社会福祉についてのもが多かった。これには、子どもを対象にしているものも多く、地区が子育てに力を入れている現状が反映されていると考える。“取り札”にはカラー写真を使用し、地区の活動の様子がイメージしやすいものをつくることができた。また、写真やイラストの様子に説明を加え、漢字にふりがなをふったことで年齢に関係なく誰もが活用しやすくなったと考える。さらに、ルールも参加者の年齢や会の目的に応じて変化させることができるようにしたことは、活用の機会を増やすことにつながったと考える。

カルタ会を地区の児童クラブで実施した際、対象はルールを理解し、積極的に参加できてい

た。“カルタ”の写真に興味深そうに見て、地区で行われている事業について改めて知る機会となっていた。地域への愛着の過程にはまず地域を知る段階があるため(加藤,2010)(加藤,2009)、今回児童を対象にカルタ会を実施したことは、地域への愛着を持つきっかけになったと考える。我々も児童ならではの視点や考え方を知ることができ、新たな発見も多かった。この“カルタ”のルールは、“取り札”を取った理由を言うものである。そのため、参加者同士の知識の共有や意見交換の場として有益なものであると考えられた。“カルタ”というゲームを通して、自由に発言できる雰囲気の醸成が行え(水馬・加藤・木村,2009)、地区について考える機会になると推察される。

カルタ会でルールを対象に合わせることが不十分であったことなどから、ゲームの進行がスムーズでないところもあった。地域で活動する際の住民との関係性の阻害要因としては、活動を推し進めていくファシリテーターの育成不足があるとも言われている(中谷・久保田・奥野他,2011)。今回は我々がカルタ会の進行を担った。しかし、日頃から対象と関わっている指導員に、“カルタ”のルールを理解してゲームに加わってもらうことで、より“カルタ”活用の可能性を高めることができたと考えられる。地区でのファシリテーターを育成し、住民の主体性を大切にしながら自主的な活動になるようサポートしていくことにより、住民同士の相互作用が生じ効果的な活動につながるものである(両羽,2007)。

情報収集用紙を作成し、住民に広く協力を依頼したことで、実際に回答が得られたことのみでなく、より多くの住民に我々が“カルタ”を作成していることを周知することができた。また、児童クラブでのカルタ会実施後に、参加した対象全員に賞状を渡したことは、参加者の周囲の地区住民にも“カルタ”の存在について周知することにつながったと考えられる。このような、広報の活動は地域づくりにおいて、住民参加を促進するために重要である(後閑・吉田,2011)。今後は、地区住民が“カルタ”を周知・活用しながら、より地区に適したものに修正していく必用があり、課題である。

## V. 結 論

“カルタ”の作成と活用を通し、地域づくりについて検討した結果、以下の3点が明らかになった。

- ① “カルタ”の“読み札”は住民参加型で作成し、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて調整したことで、地区全体の情報を網羅した“カルタ”が完成した。
- ② “カルタ”は、小学校低学年でも楽しく遊べたことから、ルールを工夫することで幅広く活用できる。
- ③ 住民が“カルタ”を活用することで、地区におけるヘルスプロモーションが促進され、よりよい地域づくりにつながる。

## 謝 辞

取組の趣旨を理解し快く協力して頂いた、川跡コミュニティセンター職員の皆様、JA いずも川跡支店支店長の森山正裕様をはじめ職員の皆様、北陽こどもクラブ運営委員長佐藤巻良様、指導員岡崎由紀様をはじめ指導員の皆様に御礼申し上げます。また、“カルタ”の作成にあたり、情報提供いただいた地区住民の皆様には感謝申し上げます。

## 文 献

- 荒賀直子・後閑容子(2011):公衆衛生看護学jp(第3版),103-122,インターメディカル,東京.
- 星旦二・麻原きよみ(2008):保健師に不可欠な活動方法,これからの保健医療福祉行政論-地域づくりを推進する保健師活動-,8-17,日本看護協会出版会,東京.
- イローナキックブッシュ(島内憲夫訳)(1995):ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章,ヘルスプロモーション-WHOオタワ憲章-,7-16,垣内出版,東京.
- 金川克子(2008):地域看護学の成立基盤,最新保健学講座1地域看護学概論,9-17,メジカルフレンド社,東京.
- 加藤亜美(2009):生活科における「地域への

愛着」の基盤を築くための-考察-主に名古屋市での実態調査を通して-,愛知教育大学学術雑誌論文生活科・総合的学習研究,7,123-132.

加藤亜美(2010):「地域への愛着」の基盤を築く生活科学習-都市部における第2学年の「秋の町探検」の授業実践を通して-,愛知教育大学学術雑誌論文生活科・総合的学習研究(8),87-96.

後閑容子・吉田亨(2011):ヘルスプロモーション,公衆衛生看護学jp,14-21,インターメディカル,東京.

まちづくりステーション,市民参加の意義:タカハ都市科学研究所,2011-12-22, [http://udit.sakura.ne.jp/town80/578\\_1.html](http://udit.sakura.ne.jp/town80/578_1.html)

水馬朋子・加藤知可子・木村要子(2009):住民参画による健康な地域づくり活動への発展要因に関する検討-事業参加者へのインタビューを用いて-,第39回日本看護学会論文集,236-238.

宮本貴美子・木村浩司(2006):カルタ,文溪堂,東京.

中谷芳美・久保田君枝・奥野ひろみ他(2011):標準保健師講座3対象別看護活動,医学書院,2-13.

内閣府(2007):地域のつながり,平成19年度国民生活白書,61-126,社団法人時事画報社,東京.

中山貴美子・岡本玲子・塩見美抄(2005):住民からみたコミュニティ・エンパワメントの構成概念-住民による評価のための「望ましい状態」の項目収集-,神戸大学保健紀要,21,97-107.

尾見茂(2011):被災地の医療支援と医療復興の課題,公衆衛生,75(12),921-924.

両羽美穂子(2007):地域づくりにおける保健師のマネジメント活動の特徴,千葉看護学会誌,13(1),69-76.

市民参画の推進の手引き:山形県天童市,2011-12-22, <http://www.city.tendo.yamagata.jp/municipal/shesaku/siminsankakutebiki.pdf>

田上豊資(2011):被災地支援で教えられた公衆衛生の原点-初動期における宮城県での支援の経験から,保健師ジャーナル,67(9),752-759.



## Making and Community Improvement of the “Egao No Hana ! Sakase Karuta”

Naomi ADATHI\*<sup>1</sup>, Hiroko KADOWAKI\*<sup>1</sup>, Wakana ITAGAKI\*<sup>2</sup>,  
Mio AIHARA\*<sup>3</sup>, Ayaka OTSUKI\*<sup>4</sup>, Kaori OGURA\*<sup>5</sup>, Ayana AKASHI\*<sup>6</sup>,  
Yuko OTSUKI\*<sup>7</sup>, Naoko KAWAOKA\*<sup>8</sup>, Saki KURODA\*<sup>9</sup>,  
Kimiyo SAKAMOTO\*<sup>10</sup>, Nobumasa KANETSUKI\*<sup>10</sup> and Minae Ago

**Key Word and Phrases** : Community, Empowerment, Community Improvement, Community Participation, Karuta

---

\*<sup>1</sup> Matsue seikyo General Hospital

\*<sup>2</sup> Okayama University Hospital

\*<sup>3</sup> Sakakibara Heart Institute

\*<sup>4</sup> Okayama University Hospital

\*<sup>5</sup> Hyogo Prefecture Amagasaki City

\*<sup>6</sup> Isawa Kyoritsu Hospital

\*<sup>7</sup> Siga Prefecture Maibara City

\*<sup>8</sup> Matsue Memorial Hospital

\*<sup>9</sup> Shimane Prefecture Oki County Nishinoshima City

\*<sup>10</sup> Kawato Community Center